

ふるさとを愛し、ふるさとを誇りに思う子どもの育成

★ ふるさと教育の推進 ★

★ いいね、校区の特性を生かしたふるさと教育 ★

◆三隅中校区では、校区3校で、地域を愛し地域から愛される児童生徒の育成のために、ふるさと教育の全体計画の作成と共通理解を行いました。総合的な学習の時間を活用し、地域の方々・公民館・社会福祉協議会等の協力を得ながら、それぞれの共通行事（みすみフェスティバル・手漉き和紙・人権を考える集い・みすみ習字等）に取り組んできました。発表の場として、文化祭や学習発表会・学習発表の日、そして、三隅自治区としての「みすみフェスティバル」等を活用し、お世話になった方々への報告と、感謝の気持ちをあらわす場としました。

また、学校評価やアンケートからも、「ふるさとの良さについて知る授業や行事に積極的に取り組んでいる」という項目に、9割以上の肯定的な評価があり、地域に支えられた学校（地域まるごと学校）という意味で、充実した「ふるさと教育」の実践が受け入れられています。今後もさらに連携を深め、様々な活動や行事が継続・発展していくように努めます。



<みすみフェスティバル> <手漉き和紙で卒業証書> <人権を考える集い>

★ 継続！ PTAと地域ぐるみの絆づくり～夏の夕べを親子で楽しむ会～ ★

◆浜田東中校区では、今年で18回目を迎えた「夏の夕べを親子で楽しむ会」が行われました。もともとは、4つの小学校から浜田東中へ進学する児童が、中学校入学前に互いに仲良くなるうという目的から始まったようですが、小学校が1校となった今も、小学生と中学生、そして、保護者や地域の方との交流の場、また、学校・家庭・地域が一体となった「子育ての場」として毎年心温まる取組をしています。当日は、多くの方々の協力を得ながら、「ものづくり体験」「食事タイム」「吹奏楽部演奏会」などを通して絆を深めることができました。

今年は、初めて小学校PTAが主管となり、新たな試みも取り入れながら、開催しました。地域の「ものづくり名人」に教わったり、中学生のボランティアの活躍があったり、今年も地域のつながりを感じることできた活動となりました。これからも、共同開催であることを両校の関係者がより意識し、浜田東中ブロックの児童生徒の笑顔を多く作り出すために、無理なく継続していける、すばらしい行事となるよう考えていきます。



<ものづくり体験(光るうちわ)>



<食事タイム>
(中学生ボランティア大活躍)

○浜田市では、「ふるさと郷育」ということで地域の財産を生かした学習を進めています。地域の「人・もの・こと」を生かすという意識をもって、地域を見直すことで、改めて学習の全体を振り返ることができます。小学校から中学校への流れに無駄はないのか、深めていく流れになっているのか点検をしていくことが必要です。○新学習指導要領のキーワードに「社会に開かれた教育課程」があります。地域・保護者の力を学校教育の中に取り入れる、地域のために学校ができることは何か考え行動することが求められています。

令和元年度を振り返って

◆表紙にある4つの視点（①各中学校区で一体となって生活習慣づくり、②学習意欲を高め、夢や希望に向かって努力する子どもの育成、③学校不適応を考慮し、変化に対応できる子どもの育成、④ふるさとを愛し、ふるさとを誇りに思う子どもの育成）を軸として、令和元年度を振り返ります。令和元年度は、①は目標値を上回っていること、②は目標値に近づいていること、③は目標値を上回っていること、④は目標値を上回っていることを表しています。

①各中学校区で一体となった生活習慣づくり
「普段（月～金曜）、1日あたり2時間以上テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯ゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をする子どもの割合」の減少
スタート値（平成26年度） 小学校6年：32.5% 中学校3年：29.9%
令和元年度値 小学校6年：37.4% 中学校3年：43.0%
目標値（令和3年度） 小学校6年：30.0% 中学校3年：27.0%

「普段（月～金曜）、1日あたり1時間以上家庭学習をする子どもの割合」の増加
スタート値（平成26年度） 小学校6年：55.8% 中学校3年：46.7%
令和元年度値 小学校6年：60.2% 中学校3年：61.8%
目標値（令和3年度） 小学校6年：64.0% 中学校3年：55.0%

★スタート値に比べると、家庭学習の時間が増加しています。しかし、中学生においては、全国と比較するとまだ少ない状況です。メディア接触については、逆に増加しています。「メディア利用と正答率」の関係を見ると、「携帯電話やスマートフォンの利用時間が少ないほど、正答率が高い傾向がある」と言えます。特にスマートフォン利用時間を1時間未満に抑えることが重要です。学校では、「使い過ぎによる悪影響や危険性」について研修を継続しています。家庭での「ルールづくり」が大変重要になってきます！

③学校不適応を考慮し、変化に対応できる子どもの育成
「自分には良いところがあると思っている子どもの割合」の増加。
スタート値（平成26年度） 小学校6年：79.1% 中学校3年：73.7%
令和元年度値 小学校6年：77.2% 中学校3年：76.4%
目標値（令和3年度） 小学校6年：86.0% 中学校3年：77.0%

「人の気持ちが分かる人間になりたいと思っている子どもの割合」の増加。
スタート値（平成26年度） 小学校6年：90.4% 中学校3年：97.0%
令和元年度値 小学校6年：92.2% 中学校3年：95.7%
目標値（令和3年度） 小学校6年：95.0% 中学校3年：98.0%

★中学校では、「自分には良いところがあると思う」児童が増加していることはうれしいことです。今後も、全ての児童生徒の「自尊感情」を高める取組を行っていきます。

④ふるさとを愛し、ふるさとを誇りに思う子どもの育成
「総合的な学習の時間で学習したことが普段の生活に役立つと思う子どもの割合」の増加。
スタート値（平成26年度） 小学校6年：83.5% 中学校3年：74.1%
令和元年度値 小学校6年：88.8% 中学校3年：91.2%
目標値（令和3年度） 小学校6年：90.0% 中学校3年：80.0%

「総合的な学習の時間において、自分で調べ学習に取り組んでいると思う子どもの割合」の増加。
スタート値（平成26年度） 小学校6年：57.7% 中学校3年：52.7%
令和元年度値 小学校6年：76.0% 中学校3年：79.8%
目標値（令和3年度） 小学校6年：65.0% 中学校3年：60.0%

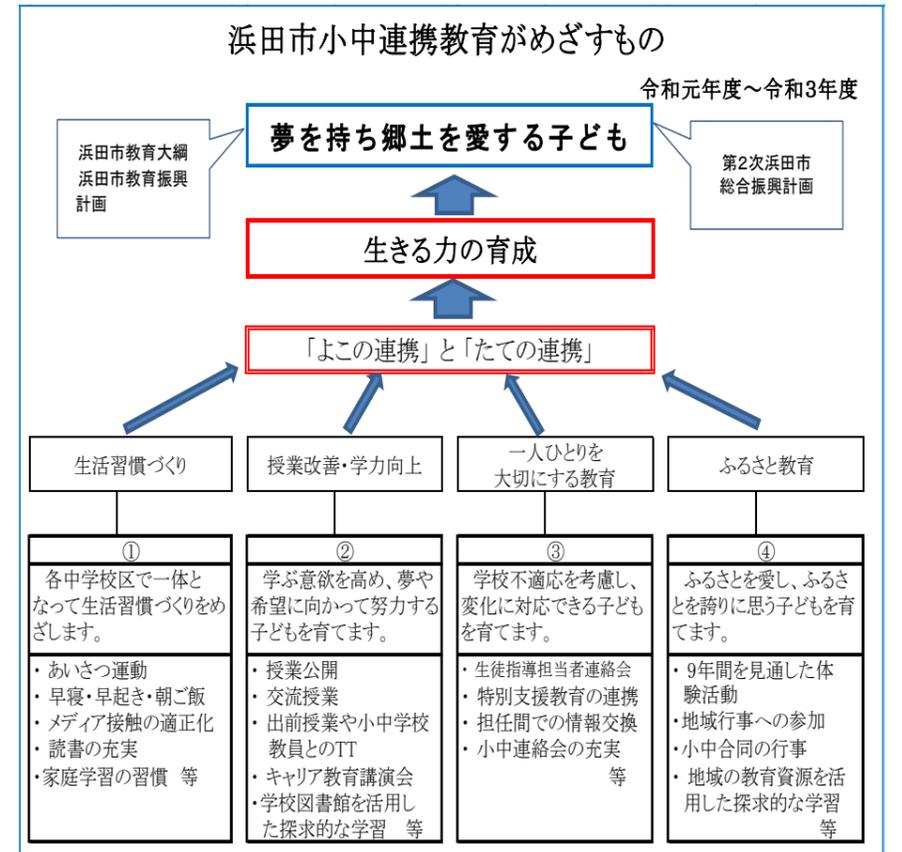
★「総合的な学習の時間」を中心とした取組ですが、2つの項目とも、スタート値を上回っており、児童生徒の意識が高まっていると捉えられます。学校で学校図書館を活用する学習や調べ学習等の充実を受けて止めておきたいと考えています。そして、浜田をふるさととして誇りに思う児童生徒を育成していきます。

令和元年度

浜田市小中連携教育実践の概要

《浜田市小中連携教育基本方針》 めざす子ども像（浜田市教育振興計画）

夢を持ち郷土を愛する子ども



「浜田市小中連携教育」は、平成21年度に「浜田市小中一貫教育基本方針」を示し、平成22年度より中学校区ごとの取組が始まりました。子どもたちの発達段階におけるそれぞれの課題に対応するために、幼・小・中一貫した「たての連携」を重視し、前浜田市教育振興計画に掲げられた3つの子ども像「きまりを守り、生活リズムを正しくたくましく生きぬく子」「感性豊かで他を思いやり、人とのつながりを大切にする子」「夢や希望にあふれ、学ぶ意欲をもち、ふるさとを愛する子」の具現化に向けて、中学校区単位で「よこの連携」を大切にしながら、それぞれの実態を踏まえ、特色を活かしながら具体的に育てたい指導目標や指導内容を定めて取り組んできました。

平成27年度に第2次浜田市総合振興計画及び浜田市教育大綱が策定され、その理念を実現するために新たな浜田市教育振興計画が策定されました。この機会に、それまでの名称「小中一貫教育」を、「浜田市小中連携教育」とし、浜田市教育振興計画の基本理念に基づき、実践を行うこととしました。今年度は、新たなスパン（平成28年度～令和3年度）の後期（令和元年度～令和年度）の1年目となります。

保護者の皆様にも、「浜田市小中連携教育」の各中学校区の取組の様子をご覧いただき、ご理解いただければと考えています。今後とも、ご支援・ご協力をお願いします。

